



農協だより

Vol.95

URL: <http://www.ja-aki.jp>

平成 26 年 7 月

海田南小学校で田植えをしました！

海田町立海田南小学校で校内菜園の水田（21㎡）の水漏れ対策を5年生の生徒107名と行いました。生徒たちは菜園の古い土を外に出して、ベントナイトで床土を作り、広島市立畑賀小学校からご好意で頂いた水田用の肥土を入れ込みました。その後6月12日に生徒たちが足で泥を踏んで代掻きをしました。初めて田んぼの中に素足で入る子ばかりで、泥の中に入ると奇声に似た歓声が学校中に響いていました。そして、勢いよく踏みつけたり、転んだりして生徒たちは体中泥だらけになりながら代掻きをしていました。それから一週間後の6月19日に田植えを行いました。5月に播いたコシヒカリの苗は大きくなっており、戸惑いながら苗を植え付けていた生徒たちも最後の方は慣れて、株間、本数、植え付け深度が上手に保たれており、覚えの良さには大変驚きました。また、6月6日に坂町立横浜小学校、6月11日には、海田町立海田小学校で先月に種まきしたコシヒカリの苗をバケツへの植え替えをしました。生育には適度な温度管理が大切と指導をしました。収穫まで大変な作業がたくさんありますが、生徒の愛情で順調に生育することを見守って行きます。



代掻き風景



田植え

活菜倶楽部総会開催

25年度活菜倶楽部総会が5月28日にJA安芸本店で行われました。昨年度は会員数の減少、春の低温や夏の渇水・猛暑などの影響があり販売高が例年に比べ低くなりましたので、今年度は会員を増加し、販売額を増やしましょうと話がありました。総会終了後、昨年度出荷が多かった会員上位10名が表彰されました。

広島市農業振興協議会総会

5月28日に第21回広島市農業振興協議会の総会が行なわれました。市内19の農事研究・10委員会で組織され市内農業の振興・活性化を図り、「ひろしまそだち」農産物の販売拡大を目指しておられます。管内では阿戸農事研究会・瀬野川農事研究会が所属し講習会での技術向上・イベントに参加し地元農産物のPRを行っています。当日の議題は無事了承され、総会終了後に記念講演として中川農園 中川和義様から「農業に夢を見続けて」の演題として、自身の農業を始めたきっかけ、海外での農業体験を活かした雇用についてなどの話がありました。

生協ひろしま「広島県農業生産者支援制度」表彰式

広島県の農業を応援し「より安心できる食と農のある豊かな暮らし」をめざし生協ひろしまが取り組んでおられる「広島県農業生産者支援制度」中国新聞社賞にJA安芸 活菜倶楽部が選ばれ、6月19日に県保健福祉センターにて表彰式が行われました。

当日は馬上会長が出席され、挨拶の中で、安心・安全な農産物の提供のため、農業使用履歴の提出や表示の他、地元根差した農業振興の取り組みについて説明されました。昨年度は売り上げが伸び悩んだため、これからも会員増加や販売量を増やしていきたいと話されました。



JA安芸切花品評会出品者募集！

出品受付：7月25日(金) 9:00~12:00

表彰式：7月26日(土) 15:00~

目的 花き栽培農家の出荷技術および切花品質を競うことにより生産意欲の高揚と切花品質の向上を図ることを目的とします。また消費者に地場産切花の理解を図ることも目的としています。

名称 平成26年度JA安芸切花品評会

開催場所 JA安芸 阿戸支店

出品規格 (1) 出品対象者は、JA安芸管内の花き生産農家
(2) 出品規格は、原則としては10本を1束ですが、新テッポウユリ・ヒマワリ
グロリオサ・宿根カスミ草については、5本を1束とします

表彰 組合長賞 特等1点、一等2点、二等3点、三等4点

特別賞 安芸区長賞・瀬野川農事研究会会長賞・阿戸町農事研究会会長賞
各1点



7月営農メモ

水稲

これから適切な水管理を徹底してください。

○幼穂形成期までの水管理(根の健全化、倒伏防止と茎数の調節)

「早生品種」コシヒカリ、ココノエモチなどは出穂25日前頃(6月下旬～7月初旬)から株元の茎の中に幼穂がで始めます。中干しを終えたら間断かんがいで根に水と空気を供給します。ガスの発生し易い水田では5日以上滞水はさけるようにして下さい。「中生品種」ヒノヒカリ、あきろまんなどは最高分けつ期が7月上旬です。圃場や田植え時期によって分けつにバラつきがあり過剰稲から小株稲まであります。過剰稲では早めに強く干し、分けつ不足の稲では軽めの中干しとします。時期は幼穂形成期前(7月中旬ごろ)までです。

○**穂肥** さじ加減や時期で収量(1穂のモミ数、モミの大きさ)品質、食味に影響します。下記の表を参考にして、穂肥までに葉色が落ちすぎようであれば、つなぎ肥で葉色を維持してください。(平年の品種別出穂期は稲作ごよみを参考して下さい)

品種名	穂肥1の時期	葉色板による判断	施肥量(多木V化成の場合)
コシヒカリ	出穂18日前	3.0～3.5	10～15kg
ヒノヒカリ	出穂24日前	3.5～4.0	
あきろまん	出穂24日前	4.0～4.5	
ココノエモチ	出穂24日前	4.0～4.5	15kg

○病害虫防除 早期発見・早期防除に努めましょう!

予防散布の粒剤体系ではイモチエーススタークル粒剤(いもち病・紋枯病、カメムシ類、ウンカ類など)3kgを出穂5～10日前に散布。但し、コブノメイガやイネアオムシなどが発生した場合にはパダンバッサ粒剤などを散布して下さい。粉剤体系ではパダントレバリダビーム粉剤DL(穂いもち・紋枯病・ウンカ類・カメムシ類・コブノメイガなど)を出穂7日前に散布して下さい。カメムシ類は山間棚田やイネ科雑草繁茂地の周辺では被害が出やすいので注意して下さい。紋枯病は高温多湿で発生しやすく近年増加傾向の病気です。常習地では穂ばらみ期に防除して下さい。リンバー粒剤・モンガリット粒剤(稲こじ病も同時防除)またはバリダシン粉剤DLを散布して下さい。

果樹全般カメムシ類注意報発表について

平成26年6月13日付で広島県より「果樹全般カメムシ類」の発生が多いので注意報が発表されました。カメムシは年1回発生して寿命が非常に長いので、果実のある間飛来して被害を与えます。被害は、吸汁によるもので褐色斑点が残ったり、変形したり、ヤニが出たりします。対象果樹は、ナシ、ブドウ、モモ、カキ、リンゴ、カンキツ、キウイフルーツ等全般です。カメムシの種類はチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシです。

防除上の注意事項 ①果樹カメムシ類は移動性が高く、飛来は園地間差が大きいので、夕方または早朝に圃場周辺も含めて巡回し、圃場への飛来が認められたら早急に防除する。なお、果樹カメムシ類は夜行性であるため、薬剤防除の時間帯としては、夕方が最も効果的である。

②果樹カメムシ類の加害は長期間に及ぶため、継続して圃場の観察に努め、防除実施後も園地への飛来が認められる場合には、追加の防除を実施する。

野菜

今月播種できる物

上旬より順次 にんじん、短形ごぼう、こまつな など

10日頃より10月収穫のキャベツ、ブロッコリー、9月下旬収穫の中生えだまめ など

下旬 11月地下旬収穫のキャベツ、9月収穫きゅうり など

梅雨明け 7月上旬には梅雨が明け、気温が一気に上昇してきます。梅雨明け後には敷わらを厚めに敷き地温の上昇を抑え根焼けを防ぎましょう。

<果菜類> 追肥 収穫最盛期となりますので追肥を定期的に行い樹勢の維持を図りましょう。

灌水 雨が少なくなる時期ですので3日おき程度に灌水を行うか、晴天が続く場合は夕方に30分～1時間程度、畦間に水を溜めるのも効果的です。えだまめは開花後の乾燥は莢太りが悪くなりますので特に注意しましょう。

なす更新剪定 7月下旬になるとハダニやうどんこ病の蔓延や高温によるつやなし果の増加など、良質な物が収穫しにくくなります。病害虫の発生がひどい場合は、1枝2芽程度残す更新剪定を行い、剪定後に追肥とハダニの防除としてモレスタン水和剤やオサダン水和剤25などを散布する事で、約1ヵ月後には良質な物が収穫できるようになりますので行ってください。

夏野菜の準備 盆明け頃より秋収穫のキャベツ苗などの販売が始まります。4月に定植したきゅうりなどは7月下旬になると収量の低下や、奇形果が増えてきますので早目に撤去し、次作の準備に取り掛かりましょう。あぶらな科作物ではホウ素欠乏が出やすくなりますので、堆肥をしっかりとしつかりと施す事と併せ、ミネGスーパーや野菜化成189などホウ素入りの資材を利用すると被害が軽減されます。また、降雨が少ない時期ですので灌水を定期的に行う事も有効となります。

土壌消毒 7月～8月の気温の高い時期に石灰窒素を処理し、太陽熱消毒を行うと土壌中の病害虫や雑草の発生が軽減されます。手順は

1.1a当り稲わら100kgを畑全面にふり、その上に石灰窒素を10kg散布する(稲わらが無い場合1a当り50kg) 2.深目に耕耘し、次作用の畦立て後、灌水を行い土壌が充分湿った状態の時透明ビニールで被覆する。土壌水分が少ないと効果が劣るためビニール被覆後、さらに畦間に水が溜まるように灌水し20～30日放置する。3.20～30日経過後ビニールを撤去し10日程度風雨にあわせた後、畦を崩さないように苗の植付けをします。

病害虫 先月に続きハダニ・カメムシ・うどんこ病の被害が多くなります。

キャベツなどの育苗開始後はコナガ・アオムシ・アザミウマ類の被害が出始めますので、防虫ネットを利用し害虫の飛び込みを防ぐとともに、被害出始めにはジェイエース水溶剤やアファーム乳剤などで防除しましょう。

③有袋栽培においても、果実が肥大して果実袋に密着すると、袋の上から吸汁されることがあるので注意する。④合成ピレスロイド系の農薬は天敵への影響が大きいので、連用するとハダニ類、カイガラムシ類の発生が多くなるので注意する。⑤農薬散布については、農薬使用基準を確認して遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。⑥使用農薬の紹介

農薬名	適用作物
アルパリン顆粒水溶剤 (ネオニコチノイド系)	ブドウ、カキ、カンキツ、キウイフルーツ、小粒核果類 ナシ、ネクタリン、モモ、リンゴ
アディオン乳剤 (ピレスロイド系)	カキ、カンキツ、キウイフルーツ、クリ、ナシ ネクタリン、モモ

注)この文書は、「広島県発表資料抜粋」農文協「庭先果樹の病気と害虫」を参考にいたしました。また、「JA農業電子図書」の(JAからのお知らせ)または、(作物の病害虫において「ナシ」のカメムシ類)を検索していただければ、写真にてカメムシを確認することができます。